

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都狛江市岩戸北 3-3-23
園名	アスク岩戸北保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

どんな音がするのかな？

<テーマの設定理由>

以前より音に興味を持つ園児が多く、楽器を鳴らした時に子どもたちから「この音は〇〇に似ている」という声上がり、もっと色々な音に触れたり、聞いて「音を探してみたい」という探求心からどんな音がするのかを探究活動のテーマにした。

2. 活動スケジュール

6月から3月まで行い、色々な楽器をならしたり触ったりしながら取り組んできた。最初は、自分たちの好きな楽器を鳴らして楽しむことからスタートし、次第にそれぞれの年齢に合わせた、気づき、探究に基づき活動していった。活動の最後には、情景に合った音を選んだり、自分たちで楽器を作ってみるなどして、子どもたちの探究心や好奇心が活かされる活動で締めくくることができた。

・6月から3月まで、月一回音楽の講師を招き、楽器を用いた音の変化や子どもが関心のある音にまつわる活動をまとめてもらった。すくわく活動後には、チャットで次の活動内容の指針を決め、より探索が深められるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・ピアノ ・ミュージックベル
- ・ウッドブロック ・ミュージックパネル
- ・カスタネット・タンバリン・トライアングル
- ・空き缶・プラスチック容器
- ・オーガンジーの布
- ・星、ドア、風船のパネル
- ・絵本「私のワンピース」「がちゃがちゃ どんどん」
- ・紙・色鉛筆

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

音に興味を持つために、普段からピアノの音に合わせて楽器をならしたりすることを楽しみながら行ってきた。また、ミュージックパネルを使い、遊びながら音の高さや、音の違いを感じる事が出来た。楽器の音を聞き楽器を当てる「音当てクイズ」や「なんの音に似ているか」など想像ができるような活動も取り入れるようにしていた。それが子どもたちの探求心につながり、「どんな素材で出来ているのか」「身近な物で音がなるものがあるか」「生活の中で音はあるか」という発見に繋がっていくことができた。

探究活動の様子：

最初の活動の中でウッドブロックを鳴らした時「この音は時計の音に似ている」という子どもたちの発見から、日常生活の中で似ている音は何かという探求から始まった。次第に「これはコンコンという音がする」「こっちはカンカンという音がする」という音の違いに気が付き、同時に楽器の素材や感触が違うのはどうしてなんだろうという探求活動が行われた。身近な物では玩具のレゴブロックのプラスチックの音、布のシャカシャカという音、空き缶のカンカンという音など、音を様々な方法で感じ、子どもたちなりに発見をしていくことが出来た。最後の活動では音に合わせた絵本の場面も想像しながら絵本を読み進めていく活動もでき、自分たちなりの「音」に対する探求ができた。月に1度、一緒に行う音楽の講師と事前に子どもたちの考えや動きを予想しながら進めていったが子どもたちらしい発想や探求心でよりよい形になったと思う。

ふりかえり(保育士の気付き)：

この活動を通して「楽器の音」という事だけでなく「日常にある音」にも目を向けたり「素材」に触れたり子どもたちなりに「音」について考え、探求していく様子があった。また「カンカン」は「雨が降ってきた時の音に似ている」や「コンコン」は「ドアをノックした時の音」など楽器と日常生活を照らし合わせて発見したり、探求していく姿があり、子どもたちの「音」に対する興味も広がっていき、毎回ワクワクしたり、新しい発見をして嬉しそうな子どもたちの様子があった。今後もこの活動を生かし、様々な楽器に楽しみながら触れていきさらなる気づきにつなげていきたい。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

音楽のキャストの時間に、ウッドブロックやタンバリン 鈴 カスタネット等さまざまな楽器を鳴らしてみても自分の好きな楽器を選んだ。好きな理由やその音を声で表現したのをクイズ形式にしてみんなに答えてもらった。楽器をオノマトペで表現すると友だちとの感じ方の違いや表現の違いに気付き、「何が違うのかな」「たしかに！」と友だちの意見を聞いて納得したり、共感したりしていた。他にも好きな楽器に似た音を保育室の中から探したり、最終的にはみんなで 1 人 1.2 個好きなオノマトペを選びオノマトペから連想されるものを絵で表現しオリジナルの「がちゃがちゃ どんどん」の絵本を作った。他にもハンドベルを強く鳴らしたり弱く鳴らしたりして音の強弱を楽しんだ。

探究活動の様子：

初めは楽器を鳴らしながら「これはウッドブロックって言うんだね」と名前を覚えようとしていたり友だちのお気に入りの楽器に興味を持つ姿があった。楽器を声で表現していた子が多かった為全体で楽器をオノマトペで表現し発表し合うと「それもいいね」と友だちの意見に賛成する声が多くあった。クイズでは、オノマトペで表現するのを楽しんだり、クイズに正解して喜んでいたり。友だちとの感じ方や表現の違いを見つけて楽しんでいたり自分の好きな楽器や表現したオノマトペが認められると喜んでいたり。その後は好きなオノマトペを 1.2 個選び絵で表現した。友だちの絵を見て「これ踏切だよ！確かにかんかん鳴っている！」と褒め合っていた。完成したオリジナルの「がちゃがちゃ どんどん」の絵本をみんなで大切に読んでいた。ハンドベルでは低いドと高いドの違いを友だちと話しながら鳴らしたり音階ごとにオノマトペで表現してみたりしていた。「同じドでも違いがあるね」「こっちのが好き！」と意見を言い合っていた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

初めは恥ずかしがってみんなの前で発言しなかった子もみんなの前に立つ機会を作り場に慣れたことで全体的に積極的に発言したり友だちの意見に共感したりする姿が良くみられるようになり他の活動でも自分の意見を積極的に相手に伝えようとする姿が増えたと感じた。また楽器をオノマトペで表現してみても「どんどん」だけでも「太鼓を叩く音」「雷の音」「〇〇を叩く音」と意見がたくさん出て周囲から自分のイメージと近いものを探して発想を広げようとしていたり友だちの意見を認め自分と近いものがあると喜んでいたり。

【5歳児実施分】

問いを考える：

音の高さ、低さ、変化に興味を持ち、自分で楽器に触れて理解を深める。

また様々な楽器などから音の違いに気付いたり、叩き方で音に変化が出ることに興味をもったことから、ペットボトルに砂や石、水を入れて楽器を作り、音の変化や違いについて話し合ってみた。また楽器への興味も高まり、後半では廃材を使って好きな楽器を作ってみたりした。

探究活動の様子：

好きな楽器ごとに慣らし方を変えて音にどんな変化があるかを探求した。

グループごとに話し合いをした際には、意見が分かれたりしながらも、自分なりの考えを伝えていた。その中で「高い」「低い」などの違いを見つけながら鳴らしてみたり、変化をつけるにはどうしたらいいのか鳴らし方にも工夫しながら探究している様子があった。

ふりかえり(保育士の気付き)：

音から感じる変化には、個人差があったのでまとめを統一するのは難しかったが、それも子どもたちが様々な角度から考察したり、意見を出し合っていく上での結果であるためよい活動ができたと感じている。また、その個人差を活かしながら、合奏などにも繋げると音階や高低差を意識して取り組めていた。

5. 活動の様子が分かる写真

3 歳児 音楽



4 歳児 音楽



5 歳児 音楽



とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	東京都狛江市岩戸北 3-3-23
園名	アスク岩戸北保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動物の体の動きと自分の体の動きの違いは何だろう？

<テーマの設定理由>

以前より動物の絵本や図鑑に興味を持ち、また昨年度の移動動物園で様々な動物に触れた中で生き物への興味を強く持っている。
そして室内や園庭遊びで身体を動かす遊びを児同士で楽しんでいる。

2. 活動スケジュール

6月から2月までの活動期間の中で、それぞれの年齢に合わせた興味、疑問、探究心が持てるようにしてきた。最初は「好きな動物・興味のある動物」など子どもたちの知っている動物を上げていき、その中から「どんな動きをしているか」「どんな特徴があるか」など図鑑や、50のからの動きのイラストなどを使ったり、子どもたちが実際に体の動きの真似をして探究、発見をしていった。

・6月から3月まで、月一回体操の講師を招いて、子ども達の運動の様子や関心の動きを共有し、すくわく活動の指針や発展を深めるようにした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・机
- ・椅子
- ・動物図鑑
- ・50の体の動きについて
- ・ボール
- ・ケンパリング
- ・大縄

4. 探究活動の実践

【3歳児実施分】

問いを考える：

子どもたちの「好きな動物は何？」というテーマからスタートし「動物の体はどんな動きをするのか」をグループや講師、保育者と話し合いながら探究していった。初めは動物の体の作りや動きにしか目を向けられなかった子どもたちも、だんだんと動物と自分たちの体の動きについて違いを発見していき、「動物と自分の体のどこが違うんだろう？」や「動物たちはどんな体の動きができるのか」を探求し、話し合ったりしながら活動をしていった。

探究活動の様子：

6月から2月までの活動期間の中で8月までは動物の体について子どもたちが疑問に思ったことを図鑑や動画を見ながら探究を深めていった。9月から2月までは、子どもたちが「好きな動物」にあげたライオン、ゴリラでは「ライオンは4つの足で歩いているね」「ゴリラは足と手があるね」など図鑑を見て体の動きを考え、次第に「ライオンは走るのが速い」「ゴリラは胸を叩く」などそれぞれの動物の特徴を捉えながら体の動きについて動物の真似をしたり、真似をしている友だちの体の動きを見ながら、自分たちの体の動きとどこが違うのかを探していった。また「50の体の動き」というイラストを見ながら「動物にできる事」「自分の体でできる事」を探し、動物と自分の体についての違いを探求しながら学んでいく姿があった。活動の締めくくりとして、自分たちのからの特徴を捉え、考えた「風船アタックゲーム」を行い、活動を締めくくることができた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

最初は子どもたちの好きな動物を上げていき、「どうして?」「なんでだろう?」という疑問や興味が子どもたちから出てくるように図鑑や、動画を見て探究していった。

「ライオン」「ワニ」「ゴリラ」それぞれの体の特徴や、得意な動きなどを考え話し合っていくうちに「自分たちの体の動きとは違う」という事に気が付いていき、「手や足は曲がる」など自分たちの体の動きにも注目しながら活動を深めることができた。

この活動をすることにより、「もっと体を動かしてみたい」や「この動物の真似をしてみたい」など運動に対する興味を持てるようになった子どもたちの姿があり、「より速く走るには?」や「もっと高くジャンプするには?」など新しい築きや探究心が芽生えてきた。この探究心を活かし、更に探究を深められるようにしていきたい。

【4 歳児実施分】

問いを考える：

子どもたちの「好きな動物は何？」というテーマからスタートしグループごとに1つ動物を決め「動物の体はどんな動きをするのか」を友だちや講師、保育者と話し合いながら探究していった。初めは動物の体の作りや動きにしか目を向けられなかった子どもたちも、だんだんと動物と自分たちの体の動きについて違いを発見していき、「動物と自分の体のどこが違うんだろう？」「動物たちはどんな体の動きができるのか」を探求し、話し合ったりしながら活動をしていった。最終的には手が使える動物とそうでない動物に分かれたため、手を使ったスポーツや足を使ったスポーツをみんなで考え実際にやってみた。

探究活動の様子：

6月から3月までキャストの体操の時間を使い、グループ間で決めた動物のできる事とできない事を友だちと話し合った。説明をするために動物になりきったり身振り手振りで教えようとしたところ、人間の出来ることとその動物の出来る事に違いがある事に気が付いたため、人間の身体の動きの表を用いてグループごとに発表し人間 猫 チーター イルカ の違いを話し合った。「猫とチーターは似ているね」「イルカも猫もチーターもボール遊びをしていたね」とボールの遊び方が違う事に興味を持った。思いついた人間の手を使って遊ぶスポーツ、足を使って遊ぶスポーツを発言していき多数決でそのスポーツそのスポーツを実際にやってみた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

初めは恥ずかしがってみんなの前で発言しなかった子もみんなの前に立つ機会を作り場に慣れたことで全体的に積極的に発言したり友だちの意見に共感したりする姿が良くみられるようになり他の活動でも自分の意見を積極的に相手に伝えようとする姿が増えたと感じた。

子ども達が色々な動物に興味を持ち自分達で決めたもの以外の動物も友だち同士で「この動物はこれが出来きそうだよね」と図鑑を見ながらイメージを膨らませたり実際に「動画で見てみる！」と興味を持つきっかけになったと思う。

【5歳児実施分】

問いを考える：

子どもたちが興味のある動物や考えていきたい動物をグループごとに話し合い、その中で体の動かし方を考えたり、自分の体と比較したり、通ずるものを見つけようとしながら活動に取り組んでいった。足、手など体の部位ごとに考えていき、グループで動きの違う点、同じように人間ができる点などを図鑑を見ながら話し合ったり、発表し合いながら探究していった。

探究活動の様子：

グループで話し合う前に、体を動かして動物の真似をしてみたりどんな動きをしているのか友だちにやってもらい、その動きを見ながら話し合ったり、意見を出し合いながら取り組んでいった。その中で動物と人間の違う点や、共通している点を見つけられていくことができた。

ふりかえり(保育士の気付き)：

決まった動きを細かく考えたり、自分たちが知っていた知識の中から、それぞれ意見を出し合いながら考察・探究していくことにより、より良く運動機能を高めていくにはどのようにしたらよいのかまで発展させながら活動することができた。

5. 活動の様子が分かる写真

3歳児 たいそう



4歳児 たいそう



5歳児 たいそう

